

## “漢字で教える”とは……

この“漢字”ということ、具体的に述べてみよう。「手を洗う」という生活指導の場だとする。まず黒板に「手を洗う」と書く(園児たちは皆これらの字を全く知らないとする)。

幼児たちは好奇心が強いので、何を書くのだろうと思い、いたずらしている子でも黒板に目をやる。知らない字なので、「何だろう」と疑問に思う。

そこで子供たちに向かい、黒板の文字を指さしながら、「今日は、“手を洗う”“手を洗う”ということで、大切なお話をします。皆さんは、どんな時に“手を洗い”ますか。はい、だれか言える人？」と発言をうながす。

黒板の字は何という字か説明しない。子供たちとの話のやりとりで、“手を洗う”という言葉を使う時だけ、いつもこの字を指さし示して、“手を洗う”と言うだけである。ただこれだけのことで、幼児たちは“手を洗

う”という字を覚え、読めるようになるのである。次の日、“手を洗う”という字を手洗い場に掲示しておけば、子供たちは皆何のためらいもなく読む。

この場合最も大切なことは、漢字をさり気なく指さして読むことである。“漢字を教える”という気持を全く持たないことである。従って、子供たちがその漢字を覚えようが覚えなかりうが、決してそれを問題にしないことである。教師が問題にすれば、子供たちも漢字を意識する。そうなれば真の漢字力は身につかない。

“漢字で教える”という漢字教育法は、真の漢字力を養うために考え出された方法であるが、この教育の効果はそれ以外にもあることがわかった。それは、この教育を実践している間に、だれの目にもはっきりと見えるようになった大きな副産物なのである。